

「ほんとの空」があると智恵子がいった豊かな自然に恵まれた「ふくしま」。歴史と伝統に育まれた固有の文化を持つ「ふくしま」。

県教育委員会では県内外の皆さんに、このすばらしいふくしまと「ふくしま」の姿をもっと良く知っていただくとうと、平成四年度から「ふくしま文学のふる里発見事業」を進めてまいりました。

古典から現代まで、県民の皆さんや市町村の方々からご推薦をいただいた本県にゆかりのある文学者や作品は、数えあげますと枚挙にいとまがありませんが、選定委員の皆さんのご尽力により、それらを一〇〇の項目にまとめることができました。

選定された項目をみますと、これも福島に関係があったのかと驚いたり、改めて読み直したくなる作品があつたり、時代、ジャンル、作家や作品の舞台などそれぞれに魅力あるものとなっております。

この一〇〇選が、もう一度「ふくしま」を見つめ直すとともに、文化振興の契機となることを願っております。

平成六年三月

福島県教育委員会



浜通り：いわきの海岸



中通り：信夫山と福島市街



会津：磐梯山と会津盆地

# ふくしま文学のふる里一〇〇選一覽

No.	作品	ジャンル	舞台	作者	出身ゆかりの地	発表年代	頁
1	おくのほそ道	紀行	福島他	松尾芭蕉	江戸	7	7
2	はて知らずの記	紀行	福島	正岡子規	明治	26	7
3	滝口入道	小説	福島	高山樗牛	明治	28	3
4	宮沢賢治歌集	短歌	福島	宮沢賢治	大正	5	7
5	あらたま	短歌	福島	斎藤茂吉	大正	10	8
6	飯坂ゆき・白羽箭	紀行・小説	福島・若松	泉鏡花	大正	10	8
7	山椒大夫	小説	福島	森鷗外	大正	4	21
8	青い夜道	詩	福島	田中冬二	昭和	4	10
9	からす組	小説	福島	大仏次郎	昭和	4	13
10	北窓	短歌	福島	山本友一	昭和	16	10
11	さくらんぼ大将	俳句	福島	菊田一夫	昭和	26	13
12	少年	俳句	福島	金子兜太	昭和	30	11

No.	作品	ジャンル	舞台	作者	出身ゆかりの地	発表年代	頁
13	女坂	小説	福島	円地文子	昭和	32	21
14	松川裁判	小説	福島	広津和郎	昭和	29	21
15	吾妻の白サル神	小説	福島	戸川幸夫	昭和	42	22
16	流離の女	小説	福島	岩間芳樹	昭和	52	22
17	深呼吸の必要	小説	福島	長田弘	昭和	59	11
18	橋のある風景	小説	福島	斎藤利雄	昭和	25	22
19	野雁集	詩	福島	斎藤利雄	昭和	59	11
20	天狗廻状	和歌	福島	安藤利雄	昭和	25	17
21	流離譚・大世紀末サーカス	小説	福島	安藤利雄	昭和	59	22
22	蠣崎波響の生涯	評伝	福島	半井桃水	昭和	56	22
23	信達歌	漢詩	福島	中村真一郎	平成	47	22
24	彌となった女	小説	福島	小林美代子	昭和	47	3





25	可笑記	仮名草子	飯名草子	齋藤親盛	二本松	江戸	17
26	黒塚／安達原	謡曲／物語	二本松	金春竹／巖谷小波	二本松	室町／明治29	17
27	東京新繁昌記	戯作	二本松	服部撫松	二本松	明治7	3
28	歴史	小説	二本松	榊山潤	二本松	昭和13	23
29	智恵子抄	詩	安達二木松	高村光太郎	安達	昭和16	11
30	和紙	小説	安達	東野辺薫	二本松	昭和18	23
31	好色一代男	浮世草子	本宮	井原西鶴	二本松	江戸	18
32	突貫紀行・遊行雑記	紀行	本宮・相馬	幸田露伴	明治20・33	8	18
33	復讐奇談安積沼・安積沼後日仇討	読本・合巻	郡山	山東京伝	江	18	18
34	良斎文略	漢文	郡山	安積良斎	江	18	18
35	阿武隈心中	戯曲	郡山	久米正雄	大正5	3	3
36	貧しき人々の群・補苀様宮田	小説	郡山・福島	宮本百合子	大正5・6	3	3
37	馳	戯曲	郡山	真船豊	昭和9	23	23
38	大地の朝	小説	郡山	諏訪三郎	昭和16	23	23
39	座頭市物語	随筆	郡山	子母沢寛	昭和36	13	13
40	子守学校	小説	郡山	菅生浩	昭和55	23	23
41	伊達衣	俳諧	郡山	相楽等躬	江	18	18
42	晴霞句集	俳諧	郡山	市原多代女	江	18	18
43	酔ひたる商人	小説	須賀川	水野仙子	大正8	4	4
44	大風呂敷	小説	須賀川	杉森久英	昭和39	24	24
45	碑	小説	長沼	中山義秀	昭和14	24	24
46	猫と泉の遠景	小説	石川	舟橋聖一	昭和38	24	24
47	酒の歌	短歌	三春	若山牧水	大正15	8	8
48	天才画の女	小説	三春	松本清張	昭和53	24	24
49	白河紀行	紀行	白河	飯尾宗祇	室町	8	8
50	陸奥松島一見記	紀行	白河他	西山宗因	江	9	9
51	花月草紙	随筆	白河	松平定信	江	19	19
52	阿武隈川水源の仙境／甲子温泉行	紀行	西郷	赤髯／結城義集	大正／昭和15	9	9
53	棚倉百勝詠歌集・ある訪問	短歌・小説	棚倉	田山花袋	明治26・大正	9	9
54	佳人之奇遇	小説	東海	散士	明治18	4	4
55	小公子	翻訳	若松	賤子	明治23	4	4
56	海港	詩	柳沢健	会津若松	大正7	11	11
57	蠅	小説	横光利一	会津若松	大正12	4	4
58	姿三四郎	小説	富田常雄	会津若松	昭和17	13	13
59	落城	小説	田宮虎彦	只見	昭和24	25	25
60	二等兵物語	小説	梁取三義	只見	昭和28	14	14
61	おけい・会津土魂	小説	早乙女貢	只見	昭和49・60	25	25
62	流星雨	小説	津村節子	只見	平成元	25	25
63	磐梯	俳句	猪苗代・磐梯	水原秋桜子	昭和18	11	11
64	小磐梯・湖上の兎	小説	猪苗代・磐梯	井上靖	昭和36・28	26	26
65	新撰菟玖波集	連歌	猪苗代兼載	猪苗代	室町	19	19
66	保成峠・磐梯愁色	随筆	猪苗代	大岡昇平	昭和28・31	9	9
67	遠き落日	小説	猪苗代	渡辺淳一	昭和50	26	26
68	けんかえれじい	小説	喜多方	鈴木隆	昭和41	26	26
69	会津節	小説	熱塩	後藤宙外	明治36	5	5
70	乳と蜜の流るる郷	小説	北塩原	賀川豊彦	昭和10	26	26
71	まぼろしの橋	小説	柳津	三浦哲郎	昭和46	12	12
72	灰色の藁に下がる	詩	下郷	渡部信義	大正14	27	27
73	会津恋い鷹	小説	皆川	皆川博子	昭和61	27	27
74	沈める滝	小説	檜枝岐	三島由紀夫	昭和30	27	27
75	ダムサイト／黄金峡／無名碑	小説	只見	小山／三城山／野野季	昭和28／34／44	27	27
76	峠	小説	只見	司馬遼太郎	昭和43	27	27
77	乙字句集	俳句	只見	大須賀乙字	大正10	12	12
78	丹下左膳	小説	相馬	林不忘	昭和2	14	14
79	祖父	小説	相馬	志賀直哉	昭和31	5	5
80	天地静大・二十三年	小説	相馬・若松	山本周五郎	昭和36・18	20	20
81	第二の青春	評論	相馬	荒正人	昭和21	5	5
82	万葉集	和歌	鹿島	笠女郎	大正13	14	14
83	相馬の仇討	俳句	原町	直木三五	昭和42	5	5
84	まぼろしの鹿	小説	高島	加藤楸邨	昭和26	5	5
85	いなかぶり	小説	高島	島尾敏雄	昭和21	5	5
86	死霊	小説	高島	壺谷雄高	昭和29	5	5
87	近代文学論争	評論	高島	白井吉見	昭和29	5	5
88	谷間の太陽・白い壁画	小説	広野	富沢有為男	昭和31・32	20	20
89	露沾公詠草	俳諧	内藤	内藤露沾	江	19	19
90	東海遊侠伝	伝記	天田	天田愚庵	明治17	14	14
91	隣室の客・青草集	小説	長塚	長塚節	明治43・39	9	9
92	大菩薩峠	小説	中里	中里介山	大正14	20	20
93	雲	詩	山村	山村暮鳥	大正14	12	12
94	移住民	詩	猪狩	猪狩満直	昭和4	12	12
95	天中軒雲月・月光仮面	小説	川内	川内康範	昭和23・33	14	14
96	定本 蛙	詩	草野	草野心平	昭和23	12	12
97	兵士たちの言葉	小説	ノーマンメイラー	いわき・川内	昭和23	12	12
98	たった二人の工場から	手記	いわき	真尾悦子	昭和34	9	9
99	涙をたらした神／阿武隈の雲	手記	いわき	吉野せい／三野混沌	昭和49・29	20	20
100	人民は弱し官吏は強し	小説	いわき	星新一	昭和42	6	6